

令和5年度第1回辰野町総合教育会議議事録

【日時】

令和5年8月25日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後2時30分

【会場】

辰野町民会館 ホワイエ

【出席者】

14名

（辰野町関係者）

辰野町長 武居 保男

（辰野町教育委員会）

教育長	宮澤 和徳
教育長代理	飯澤 隆
教育委員	垣内 由佳
教育委員	関 政彦
教育委員	萩原 多恵子

（事務局関係）

総務課長	加藤 恒男
子育て応援課長	高倉 健一郎
学校支援課長	小澤 靖一
学びの支援課長	福島 永
子育て応援課課長補佐	田中 香織
学校支援課課長補佐	宮原 隆史
学校教育係長	翠川 俊一
教育総務係	中沢 大輔

1. 開会

【加藤総務課長】

皆さん、こんにちは。お忙しい中、第1回辰野町総合教育会議にお集り頂き、誠にありがとうございます。また傍聴の皆様におかれましても、ご参加頂き、ありがとうございます。また、冒頭ですが、総合教育会議における資料については、会議録と共に後日ホームページへ掲載という形をとらせて頂いております。予めご了承ください。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに武居町長、ご挨拶をお願い致します。

2. 町長あいさつ

【武居町長】

本日は、当年度初回の総合教育会議を開催致しましたところ、教育委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご出席を頂き誠にありがとうございます。日頃は、町の教育行政のみならず、町政全般に亘りご理解ご協力を頂いております事を重ねてお礼を申し上げます。

さて、総合教育会議は、予算編成や議案提出の役割を担う私と教育行政を執行する教育委員会が互いの意思疎通を図り、辰野町の教育課題、目指す姿を共有する為の場であります。今回の協議事項は、「小・中学校の状況について」「社会教育施設の状況及び活動状況について」「小・中学校あり方検討委員会の設置について」「保育園関係について」の4項目と致しました。この中で、令和6年度末をもって辰野西小学校に統合される川島小学校についての準備状況についてご報告がなされるものと思っておりますし、町側からは、この4月に、子ども家庭庁創設に伴い新設した子育て応援課より、保育園関係の現在の状況等について、ご報告致します。また、川島小学校の統廃合に至る迄の経緯を、ここで皆様と一緒に総括し、将来の為の記録として整理しておきたいと思っております。

本日の会議で、教育委員の皆様と意見交換をさせて頂き、今後の教育行政について、さらに連携して推進して参りたいと思っておりますので、忌憚のないご意見ご発言をお願いし、冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は、宜しくお願い致します。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。続きまして宮澤教育長お願い致します。

3. 教育長あいさつ

【宮澤教育長】

皆様こんにちは。大変お忙しい中、令和5年度第1回総合教育会議にお集まり頂きありがとうございます。また傍聴の皆様も大変暑い中、お越し頂き感謝申し上げます。

町内小中学校は今週から2学期が始まっております。毎朝元気に登校する子ども達を見ていますと、今日も楽しい学校生活を期待しているのだらうと伝わって参ります。

今年の4月におこなわれました全国学力学習状況調査の結果が7月末に公表されました。今年も辰野町は自己肯定感が高い児童生徒の割合が昨年に引き続き、大変高く、県平均や全国平均を大きく上回っております。自己肯定感が高まりますとあらゆる面で良い影響が出てきますが、その事も今回の全国学力学習状況調査の他の質問項目から明らかに読み取る事ができました。大変ありがたく、日々指導にあたっています先生方に感謝でございます。また先生方と児童生徒の関係も極めて良好であるという結果もでておりました。大変嬉しく思っております。明日も登校したくなる学校、我が子も入れたくなる学級・学校をつくりましょうという目標を町の教育委員会で掲げて3年目になります。3年前迄低かったこの自己肯定感の部分が去年、今年と大きく変わり、良い姿が結果として表れているという事で、3年前に掲げた目標が達成されつつあると教育委員会では理解しております。

さて今日は、令和5年度第1回総合教育会議であります。先程、町長も申されましたけれども、小中学校の状況や、動き始めた様々な活動について確認や協議をさせて頂く事となります。川島小学校の統合については来年度の末と決定されておりますけれども、この問題については、経緯を確認すると共に、新たなあり方検討委員会設置についてこの場で協議させて頂く事となります。なかでも少子化に伴う、この新たなあり方検討委員会につきましては町民の関心も非常に高い事と思っております。今迄、教育委員会に於いて委員会設置に関わる要項等を検討して参りましたので、この場で発表させて頂きたいと思っております。教育委員の皆様には資料をご覧になって、周囲からの様々なご意見が耳に入っている事と思っておりますので、様々な角度から忌憚のないご発言を頂ければありがたいと思っております。

様々な課題山積の辰野町の教育行政ではありますけれども、だからこそ町長と町教育委員会とがより一層連携し、目指す方向を一致させて、共に歩んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

4. 協議及び意見交換

【加藤総務課長】

それでは、協議および意見交換に入ります。はじめに（１）小・中学校の状況についてと併せまして、次の項目（２）社会教育施設の状況及び活動状況について、それぞれ学校支援課、学びの支援課からご報告をお願い致します。

【翠川学校教育係長】

それでは小中学校の状況について説明させていただきます。資料No.1をご覧ください。

はじめに、新型コロナウイルスの関係であります。5類移行に伴い、学校運営は見直しながら徐々にコロナ前の状況に戻しています。年間計画に沿って実施している状況です。今年度はコロナによる学級閉鎖は発生しておりません。小学校の運動会は、来賓・保護者を招待して実施致しました。3年間薄れがちになっていた地域と連携したクラブ活動やコミュニティスクール、学校ボランティアの活動も徐々に動きだしております。

2番目、新たな学びの場の開設という事で、辰野東小学校になんらかの理由で教室に入りづらくなった子を支援する「たつこの学舎」を本年度開設しております。現在、主に2人の児童が利用しており、その他にも1人、家庭訪問等で繋がっている児童が1人おります。辰野西小学校には「LD等通級指導教室」を開設しました。通常の学級での学習が困難な場合の改善や克服を目指す学級であります。こちらも3人の児童が利用しており、他校からも1人相談を受けております。

3番目、川島小学校との交流についてであります。昨年度に引き続き、辰野西小学校と川島小学校の交流を実施しています。昨年度は音楽会と2月に交流授業を実施しており、今年度の実績は6月26日から6月29日にオンラインによる交流授業、7月6日に西小に於いて合同学習を実施しております。また8月3日に川島小で職員交流をおこなっております。今後も西小学校での音楽会や交流授業を計画しております。

続きまして、学校施設の整備状況であります。今年度の実施工事について報告致します。辰野町地球温暖化対策実行計画に沿って、東小・南小・辰野中学校の3校の体育館照明のLED改修工事を実施しております。省エネや高照度、電球寿命を延ばす効果が期待でき、いずれも夏休み中に完了しております。その他の夏休み中

に実施した工事ですが、西小学校雨水対策工事で集中豪雨時の対策をおこなっております。同じく西小学校で防火シャッターの挟み込み事故防止装置設置工事をおこなっております。続きまして東小学校の第1体育館で体育館床改修工事を実施しております。その他に辰野中学校で電話交換機の更新工事に併せて、子機を41台導入しまして、先生方に持って頂き、防犯や緊急時の対応等を迅速に対応できるようにしました。主なものは以上です。小中学校について以上で報告を終わります。

【福島学びの支援課長】

資料No.2をご覧ください。社会教育施設の状況及び活動報告について説明致します。

主なものになりますけれども、まず図書館ですが、春に4月23日から5月12日のこどもの読書週間に併せてSpringLibraryを開催致しました。夏には7月22日から8月20日にかけてサマーライブラリーを開催し、7月29日にはナイトライブラリーという事で夜間の公開をしております。これから秋の読書週間に併せて図書館まつりをおこなう予定となっております。

続いて美術館ですが、「美術と風土—アーティストが触れた伊那谷—展」、貸館事業で「ARTabi2023」、そして今週末迄開催されている「瀬戸剛の軌跡」、その後「長野県立美術館交流名品展」をおこなう予定となっております。

続いて、スポーツ振興係ですが、4月29日に「市町村対抗駅伝」が開催され、一般の部は26位でした。6月に「宝くじスポーツフェアはつらつママさんバレーボールin辰野」が開催し、512名の方に参加して頂きました。7月9日にはここ3年間コロナで開催できていなかった「南信柔道大会」が久しぶりに開催し、個人戦のみですが136名にご参加頂きました。この後、「ほたるの里小学生駅伝大会」や「辰野町駅伝大会」を予定しており、10月8日には「ほたるの里スポーツチャレンジフェスティバル」を実施する予定となっております。

社会教育関係では、町民会館で「カテリーナバンドゥーラリサイタル」をアウトリーチとコンサートの2部構成でおこなわれて、アウトリーチでは1,421名、コンサートでは417名の多くの方にお越し頂きました。お盆には「二十歳のつどい」という事で158名が参加されました。秋には「秋の芸術文化祭」、2月には「オペレッタフェスティバル」を予定しております。

公民館の関係につきましては4ページに既に終わったものもありますが35講座を順次開催しているところでもあります。

指定文化財関係につきましては、拝観者・見学者について、上島の十一面観音、シダレグリ自生地、旧小野邸住宅、油屋を含めて現在のところ、延べ318名の方に見学に来て頂いております。

その他、社会教育施設の工事関係ですが、図書館と2階会議室の空調設備、図書館と美術館、町民会館ホワイエとエントランス、荒神山スポーツ公園等でLED化改修工事をしているところです。

その他、部活動の地域移行という事で昨年も報告させて頂きましたが、令和4年の8月に「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」の中で、運動系だけでなく、文科系の部活動についても地域移行に関する提言がされております。12月には「学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方に関する総合的なガイドライン」で、文化部と運動部を併せて地域移行のガイドラインが示されました。町としては、現在スポーツ協会加盟団体に地域移行の受け入れ意向調査を実施しております。今後、調査で把握した事を踏まえて中学校と打ち合わせをおこない、今後の方向性について打合せをおこなっていく予定です。これに関する資料は5ページと6ページでお示しております。5ページは新たなガイドラインの概要についてで、6ページで県の方で示している移行に向けた推進スケジュールとなっております。1番下の市町村のところに令和8年迄に休日の部活動は地域の団体への移行という事で、中学校の部活動から地域のクラブ活動へ移行する事でスケジュールが示されております。これに従ってスケジュール通り進むかというところは、これから検討していく予定です。尚、平日につきましては、できるところから移行という事になりますので、まずは休日の部活動を地域クラブに移行するところから考えていきたいと思っております。以上です。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。只今、各課からのご報告を頂きました。総合教育会議は町と教育委員会との意見交換、情報交換の場でございますので、町側から質問をさせて頂きたいと思っております。

まずは私の方から3点質問をさせていただきます。まず1点目であります。学校と社会施設の共通事項ですが、今年はずいぶん猛暑であります。各学校現場、各施設での熱中症対策は大変苦慮されていると思っております。それぞれ屋外での活動、また体育館の活動で空調の無い施設がございますので、その熱中症対策の工夫や苦労している点等ありましたら把握されている範囲でご報告頂きたいと思っております。

【翠川学校教育係長】

熱中症対策の関係ではありますが、学校につきましては全ての教室にエアコンを設置しており、コロナの対策として換気もしつつ、エアコンを併用して授業をおこなっております。体育館につきましては、かなり暑いので今後の検討課題として体育館施設へのエアコン設置というのは、避難所であるという事も含めて検討するよう文科省から通達がありますので、そちらについても順次検討していけたらと考えております。

【福島学びの支援課長】

体育施設については、現在、空調設備は設置されておりませんので、とても暑い中ですが、直接的には対策は取れませんので、張り紙等をして水分補給を促す事と、体育館の中には風を通すように注意喚起の張り紙をおこなっております。町民会館や図書館等につきましては各部屋だけでなく、エントランス等にも冷房をつけまして、来館者の方へのクールシェアスポットとして涼んで頂くよう工夫しております。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。私の記憶の中でも体育施設には温度計等、熱中症の注意喚起ができる温度計を設置や、水分を取るよう促す掲示をして頂いて工夫をされていると思います。まだ暑い日が続きますので、その点のご配慮を頂きたいと思います。

2点目の質問については、学校関係の状況を報告して頂きました報告の中で、川島小学校の関係で西小学校児童との交流が進んでいるかと思えます。後程、この関係について振り返り等ありますので、詳しくは結構ですので、子ども達の様子等ご報告を頂きたいと思えます。保護者の中には、規模が変わった時に馴染めるかという不安があるかと思えますけれどもその点は如何でしょうか。

【翠川学校教育係長】

学校から聞き取った状況ですが、川島小学校と西小学校で7月6日に交流をおこなっております。その時の様子ですが、川島小学校の児童はオンラインではできなかった積極的な姿勢を見る事ができた。最初は緊張していたがグループでの学習で交流ができた。昨年に引き続きの交流で安心した表情であった。複数の子とペアになって交流ができたという状況をお聞きしております。西小児童の感想では最初は緊張したが

また来て欲しい。友達になってくれて嬉しかった。休み時間に図書館で川島小学校の事を聞いて、楽しい休み時間になりましたというお声を聞いております。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。今、話があったように、オンラインだけでは交流はなかなか進まないと思います。本日、ご報告いただいた活動を継続して頂く中で、なるべく不安の無いように、円滑な移行をご配慮頂ければと思います。

私から最後になりますが、社会教育施設の関係であります、ご報告頂いております別紙1の令和5年度公民館講座の中に16・17「こんにちは！『辰野美術館』」といった講座がございますが、この内容について教えて頂ければと思います。

【福島学びの支援課長】

この名の通りで、美術館に見学に行くという企画で、辰野町は芸術の町と言われて久しいわけですが、案外と町民の皆さんで美術館に足を運んだ事がない方がおられて、特別展のタイミングに併せて公民館講座で学芸員の説明を受けながら美術館の展示を見るという企画で、大変好評を頂いております。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。美術館についてはここ数年、他の市町村でないような新たな取り組み・展示会をされております。そういった機会の中で私も何度も足を運ばせて頂くのですが、改めて郷土の事、辰野町の芸術家の作品を見て、辰野町に芸術に長けた方がいる事を実感致します。コロナ禍という事でここ数年は遠くに行く機会が少なかったわけですが、そういった機会ですら改めて地元の良さ、地元の文化に触れる機会になります。当年度6月に実施した「ARTabi」の中でも、国際的な芸術を入れたという事で、その中でも地元の芸術家の作品展示もあり、非常に良い試みであったのではないかと思いますので、引き続き様々な企画を期待させて頂くところであります。

【飯澤教育長職務代理】

1点、よろしいでしょうか。提案する側からでこんな意見を出して良いのかあれですが、先程、教育長から自己肯定感がとても高まったという話がありました。それは学校の先生達が非常に頑張っているという結果の表れだと思います。是非、

これを続けていって欲しいと思いますが、今、学校でとても困っている事があります。それは報道でも沢山出ておりますが、先生不足です。担任の先生が見つからないかもしれない。そういう状況が辰野町の中でもあります。そこのところを教育委員会でも各学校でも郡内の校長会でも一生懸命取り組んでいるのですが、なかなか先生が見つからない。そういう状況があつて、これをどうしろと言う事はいかないのですが、その事を町の当局の方々にも認識をして頂きたいと思います。もしも、教員免許を持っているという方がいらっしゃれば、教育委員会迄お知らせ頂ければ役立つかと思えますので、お願いと報告と言う事で話をさせて頂きました。以上です。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。今お話し頂いた、先生のなり手不足のその一因では先生の業務量が多いという側面もあると伺っております。非常に大事な部分であると思いますので、町の方でも何か情報があれば教育委員会と共有して参りたいと思えます。

続きまして、(3)小・中学校あり方検討委員会の設置についてという事で、こちらが資料No.3-1、3-2という事で分かれております。こちらはテーマが2つになっております。川島小学校の統合に関わる経過と、これからの新たなあり方検討委員会の立ち上げに向けてという事で、それぞれテーマが大きいので、区切って意見交換をおこなっていきたいと思えます。はじめに川島小学校の統合に至る迄の経過という事で資料No.3-1からご説明をお願い致します。

【小澤学校支援課長】

総合教育会議では川島小学校の統廃合について協議を重ねて頂きました。資料No.3-1にその経過がまとめてございますのでご覧ください。まずその背景として、児童数減少や大人数の中で学ばせたいという保護者が出始め、川島区外や町外に出る家庭がありました。平成19年には川島児童館の閉園。さらに小学校入学前に川島区から外にでる家庭が毎年出るようになりました。

そんな中で川島小学校では特認校制度を平成25年度に導入しました。平成26年に宮澤教育長が就任しております。平成28年1月におこなった未就学児童の保護者の懇談会に於いて、川島区内の13家庭が参加しましたが、その内、12家庭が我が子を川島小学校以外の小学校へ入れたいという実態が明らかとなりました。

その直後におこなわれました辰野町総合教育会議に於いて、「辰野町における学校の適正規模・適正配置が必要」との結論が出され、審議会の設置が決定し、辰野町立小・中学校あり方検討委員会を発足致しました。20名の委員により1年余の期間に10回のあり方検討委員会で協議を重ね、「1学級10名」とする提言が町の教育委員会になされました。その提言を受けまして町教育委員会では「川島小学校区は統合の対象として準備を進める必要がある」とする見解をまとめました。

その中、平成30年3月の辰野町総合教育会議に於いて、武居町長より「川島小学校の存続を前提に3年間のチャレンジ期間」といった表明がなされました。その3年間のチャレンジ期間を経て、令和3年1月に開催された総合教育会議に於いて、町長より「町内全小中学校のキャンパス化構想」による川島小の存続を表明されましたが、同年4月の辰野町総合教育会議にて「キャンパス化構想」を撤回し、検討委員会提言及び教育委員会見解に沿って統廃合を進めると表明されました。その後、川島小学校保護者或いは、川島区各耕地での説明会を繰り返して参りました。令和3年8月の臨時町教育委員会で町長と懇談会をおこない、そこで改めて「あり方検討委員会の提言に沿って、隣接校との統合を検討すべき」との見解が示されました。

令和4年5月の辰野町総合教育会議に於いて、町長より町議会6月定例会にて当年度中に統合についての議案を上程する事を表明されました。同年11月の町議会全員協議会にて川島小学校区統廃合実施方針(案)とパブリックコメントの実施、辰野町の教育ビジョンについて説明をさせて頂き、同月の辰野町総合教育会議で統廃合実施方針、町の教育ビジョン、町の教育行政について協議・懇談をおこない、公表されました。令和4年12月の議会に於いて、「川島小学校設置条例の廃止・川島小学校の辰野西小学校へ統合」が決定されました。その後、保護者との懇談会等をおこなっております。

今後ですけれども、これまでおこなってきている交流活動等を継続すると共に、保護者との懇談会の実施や、今後10年後の事を見据えた辰野町の教育ビジョンの作成をおこなっていく事を予定しております。以上です。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。これまでの経過を振り返り、ご報告頂きました。報告と言う事ではありますが、この課題については教育委員会・町側はもとより、地元川島区の皆様、保護者の皆様、また本日傍聴においでの方の皆様が悩みに悩んで、

様々な議論を重ねる中で結論を出した大きな課題であったと思います。先程の説明の最後の方でもありましたが、今後の辰野町の教育ビジョンの作成に当たっては、しっかりこの内容について振り返っておく必要があると思いますので、よろしくお願ひ致します。そういった中で、様々な検討やお悩みがあったかと思いますが、教育委員の皆様には振り返って感じられている事を一言ずつお聞かせ頂きたいと思ひます。

【飯澤職務代理】

昨年の11月の総合教育会議の時に意見を述べさせて頂いたのですが、教育委員になる前に区の役員を賜っておりましたが、その事を踏まえて、これからという事ですけれども、川島小学校の在籍児童がスムーズに辰野西小学校に移行できるという事。辰野西小学校が新しいメンバーを迎えての学校になりますので、新しい辰野西小学校を作っていくと強ひ思ひしております。

【垣内教育委員】

先程もお話がありました、7月の交流会を拝見させて頂き、子ども達の様子を見ておりましたが、とても子ども達がスムーズに進んでいて、毎日一緒にいるような感じで、自然体でしたので、その部分は少し安心しました。これからも引き続き良い交流をして、スムーズにいけたら良いと感じました。

【関教育委員】

改めて川島小学校の統合の経過について振り返ってみたわけですが、きっかけが少子化で川島区外へ学校を求めて出るご家庭が多かったという事が改めて書かれているわけですが、それであり方検討委員会が立ち上がったきっかけにもなつたと思ひますし、先週の議会で議決された統合の条例改正案という事にもなつていくわけでもあります。これで令和6年の年度末に川島小学校統合最後の年が、地元川島に住む児童が、元々の住民の子達と地元で閉じさせてやる事ができない状態だと思ひます。なので、問題が段々と変化してきている中で、移住定住の皆さんですとか、諸事情あるご家庭の皆さんがお越しになつたという事で、元々の川島区の地域の危機感だとかが薄れてしまつたなというのは残念ではあります。残念では

ありますけれども川島小学校の統合というのがきちんとなされるという結論が出されたという事が教育委員としては安心したところであります。

【萩原教育委員】

川島小学校に在籍しているお子さん達が、こういった交流の場で大勢のところに入って行って、先程、翠川係長からの報告をお聞きして「楽しかった」という感想がありましたけれども、親の立場で考えると、お子さん達から楽しかったと聞いているとは思うのですけれども、まだ心配はされているかと思imasので、保護者の方が参観する事で、我が子が西小の子ども達と仲良く授業を受けている様子を直接見たりすると、親御さんの安心に繋がって、親子で安心できるかなと感じています。

【宮澤教育長】

今、振り返って改めて時系列を見ますと、私の教育長任期の殆どがこの問題であったと思います。これは教育委員会も苦しみました。地元住民も苦しんでいる。子ども達も保護者も町民も皆、苦しんだ7年間であったと思います。だから最後の子ども達の学びという観点は、社会の変化が激しく、コロナが拍車をかけている今日ですが、子ども達の学びというのは社会がどう変わろうと変わらないものだと思います。この部分はこれからのあり方検討委員会にまた活かしていかなくてはならないと思っております。むしろこれからの方が、町も教育委員会も厳しいハードルを乗り越えていかなくてはならないと思っております。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。それでは早速、今もお話のありました「あり方検討委員会」の議題に移って参ります。説明をお願い致します。

【宮澤教育長】

資料No.3-2をご覧ください。新たなあり方検討委員会を立ち上げていくという事になります。まず、辰野町の人口から見ていきますと2020年（令和2年）の18,470人の人口が、10年後の2030年（令和12年）には15,676人、20年後の2040年（令和22年）には12,914人、40年後の2060年（令和42年）には10,000人を切ってしまうという推計がされております。当然、これに伴って児童生徒数の減少も見込まれ

ています。実際、前回のあり方検討委員会を立ち上げた2016年（平成28年）における児童生徒数は、両小野小を除いて児童数938名、生徒数513名でしたが、今年度2023年（令和5年）には児童数752名、生徒数414名で、僅か7年で児童生徒は285人減少しております。学級数では約8学級分減少した事になります。

このコロナ禍によって出生者数も大きく減少し、令和元年には100人を切り、令和3年には80人を切った時もありました。最近では若干持ち直しているとしても、町全体の出生者が100人と仮定すると、単純に計算すると町内全ての子ども達を集めても3学級で収まってしまう規模になってしまいます。そうしますと、この100人が辰野西小学校・辰野東小学校、辰野南小学校3校に分散して通う事になりますので、それに伴って児童生徒を取り巻く教育環境についても、学びの集団が小さくなって人間関係が固定化していくという事、多様な考えを基により深い学びを実現させる事が難しくなってくる。それから学級の数が減ってくると、県から配置される県費の先生方も減って参りますので、現在の学校の配置では、先生数の数が大幅に減ってしまい、活力ある良好な教育環境を維持していく事が困難になるという事があります。

一方で、町内の小中学校は、いずれも校舎が老朽化しております。辰野中学校はできた当初は白亜の殿堂と言って長野県内では初めての鉄筋コンクリート造で、全県から見学者が来ており、非常に注目されておりましたが、それから60年近くが経っている校舎という事で、老朽化しており、校舎だけでなく、プール・給食室等も老朽化し改修が急務となっております。

この様に教育課題は非常に大きいわけですが、未来を担う児童生徒の学びの場である義務教育の質的な充実は、これからも確保されていかななくてはならない為に、新たな枠組みによる新しい学校の形を検討していく時期にきていると考えています。

辰野町の小・中学校のあり方については、前回設置した検討委員会が概ね令和10年迄の学校のあり方についての検討でした。そこで学びの場の最低人数が10名という規程を作りました。今回設置される検討委員会では、令和10年以降の辰野町立小・中学校のあり方について、町の教育理念と方針を受けながら、益々進んでいく少子化社会にあっても町内小・中学校が魅力ある学びの場となるようにという事で、検討委員会で検討を進めて参ります。

内容は大きく分けて2つとなります。1つ目が(1)少子化の進展に対応した新たな学校づくりに関する事項。この中をさらに2つに分けた①少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項として、小・中学校の配置及び通学区に関する事項。この中には学びの適正規模、適正配置及び学校制度等。②小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項。この中には、3つございます。辰野町の良さ、特徴を活かした新たな教育課程等のあり方に関する事項。こちらは学校制度及び教育課程の概要について。教育課程外の活動のあり方に関する事項。放課後及び課外活動の位置づけ及び地域連携に関する事項の3つとなります。

大きく分けた2つ目が(2)就学前から一貫した支援・指導のあり方に関する事項として3点。①多様化する児童生徒への支援・指導のあり方に関する事項。②保育園から小学校・中学校の連携のあり方に関する事項。③保育園・幼稚園から小・中・高等学校、短期大学迄揃った町の良さを活かした学校づくりに関する事項。その他、教育委員会が必要と認める事項。この様な内容で新たなあり方検討委員会を立ち上げていきたいと考えております。

3ページ目に、辰野町立小・中学校のあり方検討委員会設置要項を作成致しました。第1条から第8条迄のものとなります。詳細についてはご覧頂きたいと思えます。第1条(設置)については、先程触れた目的を記載しております。第2条(所掌事項)は、こちらも先程触れました検討事項になります。第3条(組織)について、委員会は、委員20名以内をもって組織し、次に掲げる者の内から教育委員会が委嘱するという事で、6項目ございます。(1)町内保育園、小・中学校の保護者代表、(2)町内小・中学校の代表者、(3)保育園及び幼稚園の代表者、(4)学識経験者、(5)一般からの公募者、(6)その他、教育委員会が必要と認める者。第4条(任期)については、委員の任期は概ね2年と考えておりますが、当該検討事項に関わる調査、研究及び検討が終了し提言をまとめた時に、解任されるものとする。第5条(委員長及び副委員長)は委員会には委員長及び副委員長を置くものとし、委員の互選により選出する。委員長は、委員会を代表すると共に、会務を総理する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時には、その職務を代理する。第6条(会議)について、委員会の会議は委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。会議は委員の過半数以上が出席しなければ開く事ができない。会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決定するところによる。委員会が必要と認める時は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見も若しくは説明を聞き、

または資料の提出を求める事ができる。委員は職務上知りえた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。第7条（庶務）は、委員会の庶務は教育委員会事務局学校支援課に於いて処理する。第8条（補足）、この要綱に定めるものの他、委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。以上が内容となります。

ここで内容をお認め頂ければ来週から開会されます、9月の定例町議会に於いて全員協議会で説明させて頂きたいと思えます。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。大変大きな課題であります。これについては教育委員会の立場というところではなく、全体の協議という中でご意見を頂きたいと思えます。

【飯澤教育長職務代理】

この児童数、生徒数の人数が2016年から令和5年迄の減少数と、現在の出生数の数を聞いた時に、衝撃的な数字だと思えました。とてもショックだと感じました。この100人を切った状況で全町が3クラスで収まってしまうと、中学になっても3クラスになってしまい、そうすると特別支援学級の数も関係してくるのですが、学級数によっては授業時数が少ない美術や技術、家庭科等の教科の先生が確保する事ができなくなってしまう可能性が出てきます。そうすると1校で全部の教科の先生が辰野中学校で確保できなくなるという現実があり、よく調べてみないと私も分からない事でもあるのですが、可能性があるという事で、学校での教育活動について大きな支障が出てくるのではないかと思います。

それから小学校も仮に1クラスずつの学級になって、3校が存在するとなると、今は理科専科の先生が辰野西小にいますが、そういった先生も確保できなくなります。先生の数が大きく減ってしまうという事。それが大きな問題になってくるのではないかと思います。できるだけ早くこういった方向を取っていく事が良いのか検討していく必要があると私は思えます。以上です。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。

町側からという事で、私の方から投げかけをさせて頂きたいと思います。今、飯澤先生がお話になった様に、少子化が思った以上のスピードで、特にコロナ禍を経て進んでおります。そうした中、早急に方向性が見出せば良いのですが、一方では、川島小学校の例を見ても、非常に難しい内容なのだろうと思います。様々な形で議論を重ねていかななくてはいけない。総町でやっていなくなくてはいけないのですが、目途としては、令和10年以降のあり方という事ですので、細かいロードマップというのはこれからだと思いますが、概ね、このくらいの頃に方向性を出せば令和10年に間に合うかというスケジュール感があれば、お示し頂きたいと思います。

【宮澤教育長】

まず、スケジュール的な事では、令和10年とは言え、今年が令和5年ですので、残り5年しかありません。前回のあり方検討委員会は丁度1年掛かっています。今回のあり方検討委員会は前回と比べますと、検討しなくてはいけない事項が非常に多いので1年間では絶対にできません。個人的には2年は必要だと考えています。そうすると残りは3年しかありません。3年経つと令和10年がきてしまいます。なので、2年で方向性を出して、その後、教育委員会で具体的なものを協議して、新たな学校で令和10年をスタートしていきたいと考えております。

その時によく理想で描く様な、町内のどこかに新しい1つの小学校を建ててという夢は、描く事はできない。新しい学校を新築し直すという体力は辰野町にはないと思います。そうすると既存の校舎を使っていくという事。また場合によっては、運用をどうしていくかという事を考えていかななくてはいけないと思います。いずれにしても、今回のあり方検討委員会は教育委員会自身でも、かなりハードルを上げています。近隣の上伊那の市町村でも新たな学校配置を決めた自治体もありますけれども、ただ学校をまとめれば良い、それで検討委員会が終わるという事は辰野町ではできないと思っております。1つの学校にして終わりではなく、どういう学校を作っていくか、どういう施設で、どういう形でという事で幾つも検討しなくてはいけないと思います。教育課程や学校生徒を含めて、辰野町は考えていかななくてはいけないと思っております。そうしますと、これは長野県内には例の無い新しい学校を考えていかななくてはいけないかもしれないと思っております。全国的に見ても例の無い学校をこの5年間で考えていかななくてはならないかもしれない。全く予想がつかず、これから検討委員会で検討しながらになります。あと5年しかない

という事は教育委員会でも非常に重く考え、ただ数合わせで1つにするという単純なものではなく、そんな考えは辰野町には合わないと考えております。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。その他になにかございますか。

【萩原教育委員】

我が子が小・中学校でお世話になっておりますが、先程、1つにまとめるのは簡単ではないというお話がありましたが、もし自分の子が今通っている小学校ではない学校に通うという事を想像しただけでも、毎日の朝がどうなるのだろうかという事を単純に凄く不安に思います。登下校をどうすればよいのか等、そういった事を具体的に考え出すと、何が最善の案なのかというのは想像できないのですが、先程、皆さんがお話された通り、時代の変化が非常に早く、コロナが急に起きる事もありますし、最近の猛暑でお子さんが亡くなったというニュースを見ると、親として登下校の安全を考えて、どう守ったらよいのかという事も非常に不安があります。また子どもの数も減っている事もありますし、子どもの成長は大人の流れる時間と違って、とても早いので、ゆっくり時間をかけて検討する事も重要な一方で、スピード感を持って、期限を決めて決断しなくてはいけないという事を考えて、私自身もきちんとした意見を皆様から集めて発言をしなくてはいけないなど、このあり方検討委員会の話があがった時に凄く感じたので、そこを意識して取り組んでいきたいと思っております。以上です。

【加藤総務課長】

ありがとうございました。この課題は非常に大きな課題であります。本日、教育長に目安として2年といった期間をお示し頂きました。この大きな課題をこの2年という限られた中で考えるというのは大変かと思っております。様々な議論を重ね、またこの方法については町の方もできる限り一緒にできる事をと思っておりますので、引き続きこの総合教育会議の場等を通じて、意見交換等して参りたいと思っております。

子ども子育て支援についてここで、4月から大きく国の方も変わる中で、当町に於きましても、子育て応援課を新設して保育園関係はそちらに動いております。そうした中で保育園関係について説明したいと思っております。よろしくお願い致します。

【高倉子育て応援課長】

資料No.4をご覧ください。保育園関係についてですが、保育園関係の事業について説明させていただきます。令和5年度から子育て応援課で町内6園の運営をおこなっております。こちらには主なものの9つを挙げさせて頂いております。今回、特色のあるものとして、(1)園児バス車内置き去り防止安全装置の装備であります。こちらは7月に完了しており、昨年発生した送迎用バスに園児が置き去りにされ死亡した事案を受け、園児バスに安全装置の装備を義務付けられた事に伴い、町内保育園で送迎をおこなっている園児バス2台に安全装置を国の補助金を利用して設置をしました。続きまして、(3)保育園Wi-Fi設備設置工事であります。こちらは間もなく完了予定ですが、次にご説明する(5)に関連するものであります。保育園業務システムの導入ですとか、保育士の研修等をオンラインでおこなう事ができる様、保育園のWi-Fi設備を整備するものです。(5)保育園業務導入システムの導入をしております。これは保育と教育施設向けの業務支援ツールである保育園業務システムの改修を11月に予定しており、それに向けて設置するものであります。こちらにつきましては、園児の登降園の管理や保護者との連絡のやり取り、書類の作成管理等が容易にできるものです。それと保育士の業務効率化と負担軽減の為に、業務システムを導入して参りたいと思います。最後、(9)病児・病後児保育施設等設計業務委託になります。設計の段階ではありますが、こちらは仕事の都合等で病期中、病気の快復期に当たるお子さんの育児を家庭でできない方の為に、病院等に付設された施設で一時的に保育をする施設であります。令和7年度に開設を目指して準備をしており、こちらの設計業務を今年度中に委託していく予定です。

最後であります。平出保育園関係であります。今後の方向性については令和3年3月(令和2年度)に策定された「保育園個別施設計画」に於いて、東小併設または東部保育園との統合の2案が示されており、地元平出区や保護者等関係者の皆様と検討を進めて参りましたが、未だに合意形成には至っておりません。また計画策定以降、国では子ども家庭庁の創設等、コロナ禍の影響等で予想以上に進む少子化の中、子ども・子育てを取り巻く情勢は大きく変化しておりますので、その点も検討が必要であると考えております。こうした事から、引き続き、地元関係者の皆様との協議、子ども子育て支援会議等の場で、丁寧に話し合いを重ねて、今後の方向性を見出していきたいと思っております。以上です。

【加藤総務課長】

保育園関係の状況についてご説明、ご報告を差し上げたところでございます。またこちらの方も、都度、状況を報告差し上げたいと思います。

最後、（５）その他という事でなにかございますか。

（なし）

それでは、まとめをお願い致します。町長お願い致します。

【武居町長】

今日はありがとうございました。幾つか大きな課題もあり、もっと深堀していきたいところではありますが、時間もございますのでこれまでにしたいと思います。

私の方でも感じた事が3点程ございますので申し上げたいと思います。まずは川島小学校の統合問題になります。これにつきましては教育委員の皆様にも本当に苦しまれ、悩まれたと思います。また今日傍聴に来られました議員の皆様にもお計らい頂きまして、皆が苦しんだ、そんな問題でありました。今日の会議の冒頭でも飯澤委員から自己肯定感のお話がありました。この言葉も私が川島小学校の事を検討する中で出てきた言葉ですが、小集団で自己肯定感が育まれるというのも1つの考え方ですし、大きな集団の中で育まれていくという考え方もあります。つまり、個性だとか才能というのも、実際のところ、絶対的なものかもしれませんが、個性も才能も突き詰めていくと相対的な評価で決まってくるものでもあるという論法に立てば、これも非常に難しい。子ども達が自己肯定感を持つ事で、全てに於いて大いなる希望を持てる生き方ができるという事も分かりましたけれども、その自己肯定感というのも私の1つのテーマです。そんな中で、川島小学校を残して欲しいと言う方、また川島小はもう閉じて大きな小学校に行って、多くの子ども達と学ばせたい。これも結局、皆さんは子どもの事を第1に考えた上で、議論が衝突してしまった問題であり、本当に難しい問題であったと思います。ただ、1つの結論を出しましたので、先程、飯澤委員がお話された様に、単に川島小を閉じて、西小に行くのではなくて、新しい小学校という考えを追求していきたいと思いました。原点に立って、子ども達の将来を真剣に考えている方ばかりですので、なんとか前向きな形で進めていきたいと思いました。

2点目ですが、今日は大きな議題とはなっていませんが、ARTabi という企画展が今年のほたる祭りの初日に開幕しました。初めての企画で世界から若手芸術家の登竜門として30点近い作品が集まりました。辰野町は芸術の町であるという事で、美術館でも様々な企画をおこなっておりますが、その中で出てきた新たな企画であります。ARTabi については株式会社ファーストアイデアジャパンの主催でやっておりますけれども、先日は東京の丸の内ではARTabi の東京展を開催し、最終的には来月、香港の方でやる予定となっております。町内で三村大悟さんや、土林光さん、町内の芸術家の方の作品も一緒に展示して頂いておりますので、町内の芸術家にとっても良い企画展だと感じております。

3点目は、教育長からもご説明のありましたあり方検討委員会ですけれども、とにかくコロナで変化が凄くて、その一方で児童数の減少についてはどうしていったら良いのだろうという問題にも直面しております。なにか発想を大きく変えて、この状況の中でやれる事はないかという事で、委員に選任される皆さんには大変な苦勞だと思います。難しい問題が多いのですが、子ども達の事を第一に考えて、皆さんと課題を1つ1つ乗り越えていきたいという気持ちを新たにしました。本当に今日はありがとうございました。

【加藤総務課長】

それでは、教育長お願い致します。

【宮澤教育長】

本日は、武居町長、教育委員の皆様、ありがとうございました。今日は沢山の協議議題がありましたけれども、辰野町のより良い教育環境づくりに向けて、これからもお互いに意見交換ができれば良いなと思っております。

今日、提案させて頂きました、新たな小・中学校のあり方検討委員会に関わる要項ですが、先程も触れました来週から開会される9月の定例町議会に於いて説明させて頂きたいと思っております。今回のあり方検討委員会については、きっと町民の関心も非常に高いのだと思います。そして町民も様々な意見をお持ちであろうと思っておりますので、この委員会の中で町民の声を何回か聞く事をしながら進めていかなくてはならないと思っております。

冒頭の挨拶でもお話した、今日も町内の小・中学校ではどの学校でも児童生徒の元気な歓声と、笑顔が溢れた学校生活を送っていたのではないかと思います。この先生達と子ども達の関係性が良好であるという話をさせて頂きましたが、これは子ども達にとっても幸せな事だと思います。子ども達にとっての最大の教育環境はやはり教師であり、施設ではないと思います。先生の事については先生方をお願いするしかないのですが、それを支えている施設だとか、学校の配置等という事は教育委員会が責任を持っていかなくてはいけないので、これからも沢山課題はありますけれども、冒頭に述べました「明日も登校したくなる学校」。先生方に於いては「我が子も入れたくなる学校・学級づくり」をしようというのを基本にやっていきたいと思っています。

コロナが落ち着いて様々なものが動き始めているわけですが、3年半程前のコロナ以前の状況には絶対に戻りません。社会の構造も価値観も大きく変化してしまいました。これは学校に於いても同じ事で、元には戻らないものですので、そして新しい変化が様々出てきておりますので、新たな学校のあり方についても、固定観念に捉われる事無く、自由な発想で、そして新たな発想や意見で協議を重ねていきたい。そして、辰野町により相応しいあり方を作っていきたいと思っております。

今日のこの総合教育会議では、改めて町長と教育委員会とが町の教育課題について協議をし、確認する事ができ、大変ありがたく思っております。是非、今回はこの様な場ではなく、児童或いは生徒の学んでいる姿を参観し、その後にその場で総合教育会議を開催する事ができたら良いなと個人的に思っておりますので、総務課長にはご検討頂きたいと思っております。ありがとうございました。

6. 閉会

【加藤総務課長】

本日はご出席の皆様から色々なお話を頂きました。皆様がお話された通り、学校、それから子ども子育ての環境は大きく変わっております。また社会の中でも価値観等も大きく変わっておりますので、今後も教育委員会の皆様と町で一緒になって、沢山の課題に取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。以上を持ちまして令和5年度第1回辰野町総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。